

誠心からの挑戦

私の挑戦

1

操業サポート

システムエンジニアからの転身 努力で“天職”に変えていく



社内外の多くの方とコミュニケーションを取り、正確性・確実性を見極めながら仕事を進めます

Profile

2017年に中途入社。前職のシステムエンジニア(SE)とは業種・業界が全く異なる当社の生産課スタッフとして、主管との操業調整業務や労務管理など現場のサポートを担当。得意なパソコン知識を生かし、多くの社員から頼られる。休日は愛娘と過ごす時間が癒やし。



大分支店 生産課
いっしき 裕介さん

SEとして働いていた環境から一転、今は客先と現場をつなぐ役割を担っています。安全面にも細心の注意を払う必要があり、前職とは異なる世界です。過去のデータ通りにはいかないことも多く、臨機応変に対処することが求められます。

当初は操業の調整に関する現場への情報伝達で齟齬が生じたこともありましたが、知識を増やし現場への伝達力を磨くため、現場を直接見て勉強したり、社内・客先・協力会社など多くの方と話を聞いたり、とにかく情報収集に奔走しました。また、幅広い分野の方々とコミュニケーションを重ね、視点の拡大にも気を付けています。

自らの五感で情報を集め 安定操業を支えたい

当社は現場が主体です。万が一現場が動かなくなると、操業が成り立たず、社内外に大きな影響が及びます。突発的な作業がある際は、自分の知見を広げるためにも、できる限り足を運ぶようにしています。一度経験しておけば、次に類似の事案が起きたときの指標になるからです。いろんな方と接し、自ら考えて答えを出していく現在の仕事にやりがいを感じています。

大切にしているのは、現場第一だということ。勤務中は常に念頭に置き、「自分が現場の方々のためにできることは何か？」を考えて行動しています。SEの時に培った知識も生かし、現場で時間がない方の力になれるよう、今後も作業効率アップに貢献していきます。



見やすい資料作成やVBAの構築など、得意分野を生かして積極的に現場をサポート

上司から一言

人柄や真摯な 姿勢に感服

一色さんは持ち前のコミュニケーション力と明るい人柄で、職場や客先との信頼関係をすぐに構築できる人財です。前職とは全くの畑違いの職場で、戸惑いや悩みもあると思いますが、常に前向きに行動し、現場のために全力を尽くす姿にいつも感謝しています。今後の生産課を担う存在として、ますます辣腕をふるってくださると期待しています。



大分支店 生産課長
向江 崇さん

中期経営方針（第73期～75期）で、「競争力強化と新たな事業領域への**挑戦**により、持続的成長を実現する」目標が掲げられました。製造業でモノづくりを支える当社の社員たちは、常にチャレンジ精神でモノづくり力を強化・醸成しています。2022年も顧客や社会のニーズに応えながら、日々前向きに挑戦を続ける社員を紹介します。



ココちゃん

私の挑戦

2

職域拡大

設計と調達を経験し マルチな人材を目指す



自分で考え実践することも大切ですが、スケジュールを常に意識し、周囲に協力をあおぐのも重要。「ここまでやってダメなら相談する」と期限を決め計画を立てています（右が山本さん）

産機事業部では計画、設計、製作、据付、メンテナンスまでのエンジニアリング事業を行っており、私は約6年間設計グループに所属していました。2019年に調達グループへの異動が決まった時は、本当に驚いたものです。学生時代は理系だったのに大丈夫だろうか、と。

実際に働き始めてからは、上司や本社購買グループの方々にも協力・指導していただき、各工事案件の購入品の手配や国内外の取引先への製作の依頼、製品の輸出・輸入などを主に担当しています。設計を経験していることから、減速機などの特殊仕様品や鋼材などの知識があり、調達で生かせることが強みです。

実務と並行して交渉術や 貿易の法律などを学ぶ

調達グループでは新たに法律の知識を得る必要があり苦労しました。セミナー受講後も、業務で疑問に思う点は専門書を読み直し、上司に相談しています。また、会社の代表として契約する立場なので、取引先との齟齬が生じないように注意しなければいけません。設計グループで経験が浅かった時は、相手に伝えたつもりが、一度の説明では伝わっていなかったこともあったため、今はまず、自身でしっかり理解し考えをまとめ、案件の内容・相手を考慮して対応するよう心掛けています。また、輸出案件では、手続き書類の準備に時間がかかるため、事前に必要な情報を他部署から入手しまとめています。現在はさらなる実務能力向上のため、交渉術を学び、今後、貿易実務検定も受験する予定です。

Profile

2013年に入社後、産機事業部に所属。機械装置設計グループ（現在のプラント機械設計グループ）を経て、2019年10月から調達グループに異動。設計と調達の両面で活躍を期待されている。ピュアな笑顔が持ち味で、プライベートでは2020年に父親になった。



産機事業部 調達グループ
マネージャー 山本 勝広さん



相手に納得してもらえることを第一に、社内外の関係者にうまく伝えることを心掛けています（左が山本さん）

上司から一言

誠実な対応で 取引先の信頼が厚い

山本さんは、何事にも誠実で、取引先からも厚い信頼を寄せられています。真面目で責任感が強く、仕事にしっかり取り組んでくれるので、安心して任せられます。勉強と経験を重ね、社内外関係者への発信力・巻き込み力を強化し、今後も活躍してくれることを期待しています。

産機事業部
調達グループ長
関 貴和さん



国家資格取得

熱意と努力でコーススが誇る
多能工を具現化する

筆記試験・技能試験ともに暗記と理解が大切。5カ月前から計画的に学習し、休憩時間や家で何度も問題集を解きました

Profile

八幡支店 コースス課
班長 美濃 佑次さん

2006年に入社。九州製鉄所八幡地区コースス工場のコースス炉メンテナンス作業と炉体の診断作業を担当。炉体補修をタイムリーに実施し、炉体延命に貢献している。プライベートでは女の子(10歳)と男の子(8歳)のパパで、イクメンの顔をのぞかせる。

コースス課は、九州製鉄所八幡地区コースス工場のコースス炉全体に係るさまざまな請負業務を行っており、電動工具を使う機会が増えています。より安全に、効率的に作業を行うためには、電動工具は欠かすことができません。

私は当初、電動工具年次点検時の補助や日常点検、簡易補修を行うだけでしたが、上司の意向を受け、2021年10月に「第二種電気工事士」の資格取得に挑戦することになりました。当時は第二種電気工事士免許の保有者は炉蓋整備グループ・長尾職長だけで、コースス課内で電動工具の整備ができる人が少なかったのです。



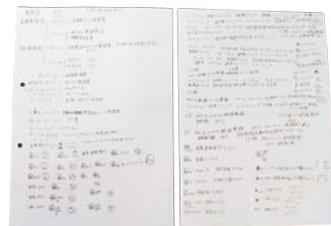
電動工具を補修中

コースス課には、200以上の電気機械器具があります。年次点検などは八幡支店整備・工事課からの定期的なサポートがありますが、日常点検や整備・管理は自職場で行う必要があります

資格合格で仕事の幅を広げ
正しい知識と理論を伝えたい

「第二種電気工事士」は、持っていないと業務そのものが遂行できない「業務独占資格」に分類される国家資格です。資格があれば600ボルト以下で受電する施設の工事を行うことが可能となるだけでなく、理論を学べば社内の安全性を高めることができます。

技能試験では、事前に公表された13問の候補問題のうち、いずれかが出題されるため、すべての問題を解けるように準備することが大変でした。会社から講習会にも参加させていただき恩を感じているため、絶対に合格したいです。合格発表の1月下旬には有資格者の証を得て、部下に根拠を基に大切な知識や理論を伝えていきます。



解説が分かりやすい問題集・参考書を選ぶことがポイント。YouTubeやWebの解説を見て理解を深め、自分に分かる言葉や図でノートに整理

上司から一言

能力がある人には
チャンスを与えたい

当課では年々増加する多種多様な電動工具の日常点検や補修ができる人材を育成することが急務でした。美濃班長の炉体補修技術はお客さまからも高い評価をいただいております。変化点発生時の対応能力も高く、安心して仕事を任せられることができます。改善提案活動にも積極的に取り組み、後輩の良き手本となる監督者です。

八幡支店 コースス課
係長
新原 亮一郎さん



私の挑戦

4

国家資格取得 配管工事責任者として 極めていく



発注先業者と協業する立場にあり、相手に余計なストレスを与えないように優しく伝えることが、私の仕事のスタンスです

Profile



光支店 整備・工事課
朝本 幸洋さん

2014年に入社し、日鉄ステンレス(株)山口製造所(光エリア)内の給排水(雨水・浄水・工水)に関する配管工事の一連の業務を担当。新人のころから60代の上司の背中を追いかけて、積極的に配管工事のノウハウを得て活躍中。昨年結婚し、一回り成長したと評判だ。

お客さまから連絡を受けたら広い製造所構内の現場へ行き、水漏れなどの補修工事を行っています。毎回異なる現場で、状況に応じて対策法を考え、がむしゃらに駆け抜けてきた気がします。7年以上経験を積んでも勉強することが多く、プロの配管工事責任者になれたとは思っていません。

現場監督者として発注先業者の20人程度と仕事をする際は、「安全」に一番気を使います。指示を聞いてもらえるように、仕事以外では和気あいあいと話せる関係の構築を大切にしました。職人気質の方が多く、依頼・指示の際は穏やかな口調を心掛けています。

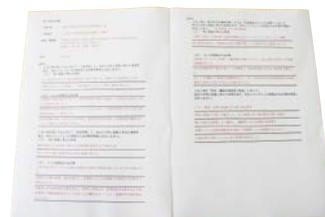


1級管工事施工管理技士の勉強期間は1カ月で、土日よりも平日の終業後フル活用。仕事の緊張感を勉強に置き換えて、職場で集中して学習しました

合格を果たし光支店の 監理技術者として登録

大規模な建設工事には、監理技術者を現場に配置しなくてはならない建設業法の規定があります。1級管工事施工管理技士合格後に講習会を受けて監理技術者になることができるため、昨年、一念発起して受験し、合格しました。第一次検定(筆記試験)の3カ月後に第二次検定(実地試験)があり、独学以外に講習会にも参加しました。

第二次検定は、複数の出題の中から受験者の選択で解答することができ、1つに絞らず複数の科目を勉強したことが合格の秘けつだったと考えています。振り返れば、仕事の責任感・緊張感に比べると、試験勉強の方が楽でした。次は、1級土木施工管理技士を目指す予定です。



自分の工事経験を記述する「施工経験記述問題」が必ず出題され、施工管理技士としての適性が判断されます。ワードで作成して整理し、手書きで本番の練習をして、合格した時はうれしかったです

上司から一言

柔軟な対応力で 工事責任者として成長

朝本さんは、所内の給排水配管の補修工事を取り仕切り、お客さまからの信頼も厚く、頼りにされています。昨年結婚し、以前にも増して責任感にあふれています。水漏れなどの突発対応が多く気を使うことが多い仕事ですが、柔軟に対応する能力といろんな意見を素直に取り入れるところに感心させられます。

光支店 整備・工事課長
清広 将さん



私の挑戦

6

社内研修改革

コロナ時代に適した教育へ 本音で話し合い研修を進化させる



グループ会議を重ねることはもちろん、関係部署との連携も重視。法務・システムグループからWebexのバージョンアップ機能を教わり、「ブレイクアウトセッション」が可能に。さらに技術グループと連携して、リモートでの発表会マニュアル作りにも取り組んでいます。

新入社員や中途採用者、昇任昇格者向けに研修を実施している人材開発グループに、新型コロナウイルス感染症の流行によるピンチが訪れました。2020年の新入社員導入研修を目前に、緊急事態宣言が発令され、本社での研修が不可能となったのです。変化に対応した研修計画を作成しても、緊急事態宣言で何度も白紙に。先の見えない状況に、心が折れそうになりました。

グループで意見を出し合った結果、主務職社員研修はリモート・オンラインで実施。講習会や他社ヒアリングなどで知識を深め、課題と感染対策の方法を考え、受講者を不安にさせない研修を追求し、実践あるのみでした。



研修数カ月後の若手主務職社員のヒアリングで成長をフォロー

厳しさよりも自ら考えて 答えを導く研修へ

現在の社内研修は、私たちが各支店に赴き実施することもあれば、リモート・オンラインで開催することもあります。「新入主務職社員3年育成研修」や「研修数カ月後の受講者へのヒアリング」などは、コロナ禍をきっかけに体系化できた良い面もありました。

また、リモート・オンライン研修では「講義を見せるだけではなく、講師と対話をさせる。研修に集合している気持ちを持ってもらう」のを目標としました。1962年から続く研修は厳しく教えるのが当社らしさでしたが、今は自ら考えて答えを導くことを重視しています。一筋縄ではいかなかったコロナ禍での研修で、受講者や上司から喜びの声を聞くことができたので、今後も使命感を持ち頑張ります。

Profile



※感染防止対策で個別に撮影しています。

本社 人材開発グループ
伊藤 春夫さん(左)
石田 恭二さん(中央)
杉木 奈津子さん(右)

グループ長、シニアマネジャー、女性総合職の3人が、社内階層別研修を通し、社員の皆さんをバックアップしています。互いの意見を尊重しつつも、フラットな人間関係で風通しが良く、人材育成に熱を持って取り組んでいます。



リモート・オンライン研修の「受講者・講師向けに配慮すべきポイント」についてマニュアルを作成して配布。また、受講者には、「Webex操作要領」を配布し、研修前にパソコン操作法の勉強会を開催することで、不安を解消しています

上司から一言

社内教育の熱意と 行動力に感謝

新型コロナウイルス感染症の影響で従来型の研修の見送りが決定した後、落胆する間もなく「どうやれば効果の高い研修ができるか?」と気持ちを切り替え、ミーティングと十分な準備を重ね、あっという間に新たな研修スタイルを構築してくれました。特に石田シニアマネジャーは勉強熱心で、研修を重ねるごとに技術力が上がっており、その行動力には頭が下がります。

本社 人事部長
志賀 健一さん



私の挑戦

7

社会人野球

1年目のケガを乗り越え 優勝めがけてフルスイング



ポジションはセカンドとライト。チームメイトにフォームのアドバイスをもらいながら、走攻守バランスよく鍛えています

Profile



君津支店 総務・人事グループ

佐藤 虹輝さん

2019年入社。総務・人事グループで製鉄所構内で使用する特殊車両や自動車の運行実績入力、購買依頼入力などを行う。社会人野球チーム「日本製鉄かずさマジック」に所属し、新庄剛志（現日本ハムファイターズ監督）のように周りを楽しませる野球選手を目指している。

2019年4月「日本製鉄かずさマジック」に入団し、10月の都市対抗野球大会（以下都市対抗）予選に向けて練習を重ねていました。ところが直前の9月、練習中に肩にケガを負う事態が発生。痛みが強く、もう野球は続けられないだろうと半ば諦めかけていました。そのとき心の支えとなったのが、母や友人からの励ましです。応援してくれる人がいるのなら、と一念発起し、強い体づくりを目指しました。

練習前に必ず体幹トレーニングを行い、練習後にはマシンのバッティング練習を毎日自主的に継続しました。コツコツと積み重ねてきたことが、自信にもつながったと感じています。

心身の強さが増し チームへの貢献が叶う

昨年春のオープン戦から少しずつ復帰し、10月には都市対抗本大会への出場権を得るための大切な試合で、スタメンに選出されました。試合前の円陣で声出しを任せられ、チームメイトを盛り上げる役割も果たすことができました。かずさマジックが一丸となり勝利をつかみ、本選への出場が決定。私個人としてもチームに貢献でき、野球を諦めなくてよかったと実感した瞬間でした。

何事も準備が大切だということは、ケガをして一段と分かったことです。復帰はゴールではなくスタート。野球を通して人を笑顔にしたいという思いで、家族や君津支店メンバー、かずさマジックファンの声援を力に、一日一日を積み重ねて来シーズンの都市対抗優勝に挑みます。



いつも支えてくれ、試合に駆けつけてくれる母にも感謝。リハビリ中、挫折しかけたときの「諦めさせるわけないでしょ!」という言葉は一生の宝物です

上司から一言

前進あるのみ! さらなる活躍を応援

佐藤さんの最大の長所はポジティブ思考です。常に前向きな発言、行動、準備ができたからこそ都市対抗予選での活躍につながっているものと感じています。今後の活躍はもちろん、かずさマジックを支えていく存在になれるよう、私たちも全力でサポートしていくので、頑張ってください。

2022年に トライ



ココちゃん
一步一步の挑戦が、自信アップや視野を広げることにつながります。マイルストーンを積み重ねると、大きな目標にも到達できるかも!? 当社およびグループ会社の皆さんに、仕事における今年の目標を教えてくださいました。



仕事をスムーズに進めるため、クレーン免許を取得し、さらにクレーンの仕組みを理解して、仕事の幅を広げていきます。

大阪事業所 整備・工事グループ
山岡 航大さん



エアコン作業の無駄を省いて作業効率を上げることで、時間の余裕を作り、ミスやトラブルを減らします。そして繁忙期での注文受け入れ数を増やし、職場に貢献したいです。

テンライ開発(株)
西村 基さん

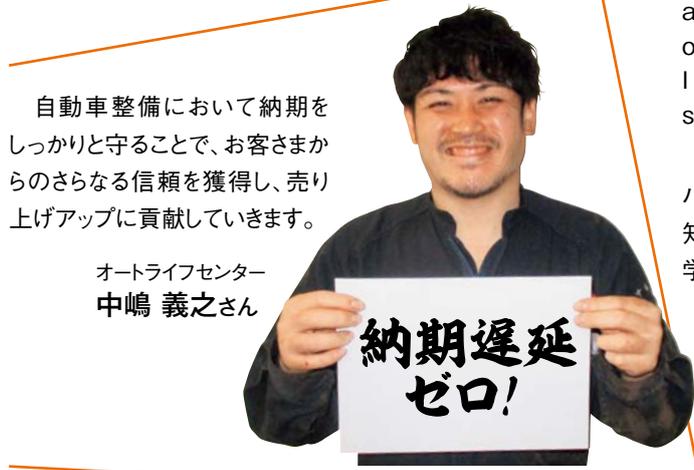


I want to be the best worker by knowing and mastering all processes in HAMADATEC as well as mentoring other members, especially newcomer.

I believe that there is no limitation to get knowledge, so I need to strive to continue learning new things.

私はハマダテックのすべてのプロセスを知り、習得し、他のメンバー(特に新人)へ指導することで、最高の社員になりたいです。知識を得ることに限界はないと思うので、これからも新しいことを学び続ける必要があります。

HAMADATEC SDN. BHD.(ハマダテック) 技術グループ
Maisarah binti Zakarria(マイサラ)さん



自動車整備において納期をしっかりと守ることで、お客さまからのさらなる信頼を獲得し、売り上げアップに貢献していきます。

オートライフセンター
中嶋 義之さん



グループ内でのコミュニケーションがより活発になれば、仲間同士の思い違いや連絡ミスも減ると思います。グループ全体のモチベーションも上がり、業務も円滑に進められるため、自分が中心となり活性化を図りたいです。

光支店 製鋼課
丸山 直哉さん



アイコムソフト(株) ソリューション第一システム部
吉浦 直輝さん

技術者としての基礎知識を身に付けるとともに、自分が技術者であるというしっかりとした自信を手に入れたいです。



51歳で思ってもみなかった講師に挑戦 仕事の質を高め、生きがいのある毎日に

人材育成支援を手掛ける「株式会社日本能率協会マネジメントセンター」で企業研修を担当するコンサルタントの水上 益満さんに、「挑戦」から得られる貴重な経験について伺いました。

50歳で、はたと考えた この先どう生きるべきか

私は現在、企業の階層別研修をはじめとした研修講師として活動しています。しかし実は、30歳で中途入社してからはずっと、人材育成の企画営業担当が長く、直前は研修開発部門の責任者をしていましたので、畑違いの講師業にチャレンジするなんて、思いもしませんでした。

きっかけは、上司からの後押しです。50歳を迎えた時、私は今後の自分のキャリアをどう築くか迷っていました。単身赴任も長くなっていたことから、社内の自己申告制度で“管理職を降りて地元に戻って営業職に戻りたい”と意思表示をしました。その時に当時の担当役員に呼ばれてこう言われたのです。「あなたは講師が向いていると思うから、挑戦してみては？」。

上司のすすめを一度は拒否 考えに考えて未知の世界へ

私はキャリアのほとんどを、営業として過ごしていました。いきなり「講師」と言われても、「いや、自分には向いていない。業務は幅広く、一対一で話すのは自信があっても一対多となると話は別だ。今さら失敗する可能性の高い道を選ぶのはリスクが高い……自信がない」というのが本音でした。とはいえ、上司の要請はむげにできません。それに、今のまま働いていても、役員にならない限り、55歳の役職定年で役職を降りなければならない。もし私が講師になれば、「50歳を過ぎての転身」という一つの働き方を後進の人たちに提示できる可能性はある。そう考え、意を決して講師の道へと転換しました。

工夫や改善で仕事の質が変わる 挑戦したおかげで社内も変化

それから1年間、講師のための勉強を続け、講師デビューを果たしました。今振り返ると、未知の仕事に挑戦することは、工夫や改善を常に伴うため、仕事の質の向上につながります。また、幅広い視点が備わり、新しい学びをインプットしようと能動的になる。結果、毎日の生活が生き生きとしたものになります。

50代にもなると、もう変わらないのではと思ってしまいがちです。「変わらない」と思い込むことはつまり、「自分に対して期待しないこと」。期待がなければ、期待通りの成長はできません。私はあの時、上司が「向いている、やってみたら」と期待してくれたから、そして「やってみよう」と思えたから転身できたのです。あれから約10年。社内には「講師チャレンジ制度」の仕組みができ、別の職種に就く後輩たちがトライできる道が拓かれています。



**実は初めは私も
未知の世界へは二の足を
踏んだのです**

Q チャレンジに失敗するのが怖い。どうしたら…

A チャレンジしないままでもリスクはありますよ

私が講師に転身するときも、失敗する不安がありました。でも、もしかしたら営業を続けていても失敗したかもしれません。会社は常に変化しているから、変化に対応できない社員、スキルを伝承していない社員という評価になる可能性もある。**どちらを選んでもリスクや不安はある**んです。だとしたら、「安全パイ」だと思って今の日常を繰り返すのはもったいない過ごし方。挑戦することで日々が充実し、視点が変わりますよ。



Q 一言で言うと、挑戦とは？

A 新しい出会いがあり、成長の機会をくれるもの

人は経験を通じて成長するものです。挑戦は、新しい出会いや学びの場をもたらし、経験の質を高めてくれます。私も講師の道を選んでからというもの、「トークにこの要素を入れよう」「新聞のこの情報は役立つ」と**もの見方が大きく変わりました。それが、仕事のバージョンアップにつながる**のです。

Q どう目標を決め、ステップアップしたらいいですか？

A 自分の能力より少し高めの目標を設定し、たびたび内省しましょう

何もしないと、同じ日常の繰り返しですが、チャレンジしている途中は、何を学べたか振り返るタイミングが必ずあります。なぜなら、うまくいったり、いかなかったりすることがあるから。うまく進めるにはどうしたらいいか、次にどんな行動を起こそうか、工夫し改善しようとする。これが、教訓を導き出すということです。**経験して内省し、次の行動を変える**。大切なのは、自分の能力よりちょっと高めの目標を設定することです。

＼ 成長実現へのプロセス /



Profile

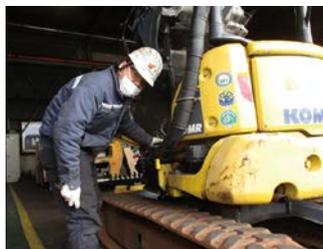
パートナー・コンサルタント
水上 益満さん
 大学卒業後、印刷会社・出版会社に勤務。30歳の時に(社)日本能率協会に転職し、分社後は、(株)日本能率協会マネジメントセンターに転籍する。ビジネスツール、人材育成の企画育成営業に従事し、営業部門や研修開発部門のマネジメントを担当後、企業の階層別研修などの講師として活躍中。

生き生き働いている若手社員のON/OFFを大解剖!
毎号、各部門の10代・20代の社員をクローズアップします。

ON

メモと実践で着実に成長

乗用車をはじめ、大型トラックや産業建設機械の整備を行っています。高校の自動車科を卒業して入社しましたが、高校で習った知識が業務には直結しておらず、最初は戸惑いました。先輩に教わったことはしっかり守り、メモに残したり、繰り返し実践したりして覚えています。将来的には、大型自動車や建設機械の運転免許を取得し、仕事の幅を広げたいです。



細かい作業に時間がかかる時もありますが、要領よくこなせるよう心掛けています

先輩の 背中を追い 一人前の 整備士へ



OFF

暇さえあればドライブへ

愛車は、2020年の夏に購入したエクストレイルです。休日はよくドライブを楽しんでいます。以前、下道で出雲大社まで行き、さらに広島を經由し、北九州に帰るといった長距離ドライブをしたこともあります。いつか京都まで車を走らせてみたいです。



広々していて、乗り心地抜群です

ON

目指すは先輩のような整備士

まだまだ覚えることが多く、細かい作業をこなすのも大変ですが、毎日自分で目標を決め、仕事を終わらせることができると達成感があります。私の目標は、会社の先輩のような整備士になること! 何でもできる一人前の整備士になりたいです。先輩たちが気さくで、職場の雰囲気が良いので、たくさんコミュニケーションをとり吸収していきます。



吸引車を整備中。仕事が多岐にわたるので、実践を重ね一つ一つ覚えるのが大切!

オートライフセンター 戸畑工場

そ だ だ い き
楚田 大喜さん(20歳)

2020年4月に入社。大らかな性格で、仕事への前向きな姿勢が光る人物。可愛がってくれる先輩に対して、整備士として尊敬の念を抱き、早く追いつけるように日々奮闘している。

音楽 10%

聴くのも歌うのも好きです

ドライブ 70%

どこまでも愛車を走らせたい

友人 20%

友人と話すのが楽しいひと時

楚田さんの
元気の素

OFF

元気の秘訣は友人と音楽

友人と過ごす時間が、私のリラックスタイムです。幼い頃から歌うことも好きで、広い音域を出すことができます。ドライブ中に友人から「歌って」と言われることも。特に好きなアーティストは平井大です。夜は平井大の曲、昼は洋楽やHipHopなど、時間帯によって聴く音楽を変えています。



ドライブで長崎へ。グルメやレトロな街並みが最高でした(右から2番目が楚田さん)

私も応援!



みんなに良い影響をもたらす存在

石川 康太郎班長

楚田くんは、誰にでも気軽にあいさつができ、元気さと愛嬌で職場を明るくするムードメーカーです。好奇心と意欲を兼ね備えた楚田くんには、みんなが刺激を受けています。これからステージが上がるごとに失敗や問題の壁が立ちほだかと思えますが、前向きな姿勢で吹っ切って成長していくよう、みんなが期待しています。

◆次号は光支店のKirari輝く人をご紹介します。